

「相中相高百年史」より  
(昭和初期の相馬中学校 6)

## 6 後退できぬ「国体明徴」

1931(昭6)年9月18日、奉天北方の柳条溝で満鉄線が破壊された。満州事変の勃発である。小火で済むものと考えていた国民の予想を裏切って、その戦火はじりじりと輪を拡げて行ったのである。これが10年後の太平洋戦争にいたる、曲折した軍事行動の第一歩になってしまった。

軍を中心とする新興勢力は、大陸制覇実現の好機とばかり、帝国体制の危機感を煽り、体制強化のための諸策が、軍事力を背景に矢継ぎ早やに繰り出されたのである。

1932(昭7)年の五・一五事件において、国家の守護神たる軍部が、堂々と首都東京において政府首脳にその銃剣を向けたことは、訓練の域を脱しない教育界に多大な衝撃を与え、軍部の対立の根深さに驚かされたのである。

この年国民精神文化研究所が設立され、昭和9年の「日本精神によって現今及び将来の我が国の思想界を統一せんがため」の文部省思想局設置へと、その国体明徴の体制は露骨になるばかりであった。

昭和9年度の相馬中学校年間行事一覧から、現在は行われていないものを抽出してみた。驚くなかれ、30もある。行事には、天皇に関するもの、神社に関するもの、軍に関するものなどある。

これらを見ると、いずれも皇室を中心とし国体の尊厳の下にある誇りを利用して、国民精神を涵養し、教育にも国家意識を注入しようとする政策的意図が明らかである。

- 4月3日 神武天皇祭
- 18日 県社中村神社参拝
- 26日 靖国神社臨時大祭
- 29日 天長節
- 5月27日 海軍記念日
- 6月下旬 非常時避難演習
- 7月11日 野馬追祭、県社中村神社参拝
- 9月中旬 五年兵営生活
- 23日 秋季皇霊祭
- 10月1日 県社相馬神社参拝
- 13日 戊申詔書下賜記念日
- 17日 新嘗祭
- 20日 二宮神社参拝
- 30日 教育勅語下賜記念日

11月3日	明治節
上旬	非常時避難演習
10日	国民精神作興ニ関スル詔書下賜記念日
中旬	全校野外教練
23日	新嘗祭
下旬	五年実砲射撃
12月中旬	教練査閲（予定）
中旬	操行査定会議
25日	大正天皇祭
1月1日	四方拝
中旬	武道寒稽古
2月11日	紀元節
下旬	五年操行査定会議
3月10日	陸軍記念日
中旬	四年以下操行査定会議
21日	春季皇霊祭
27日	国際連盟離脱ニ関スル詔書下賜記念日

昭和8年、日本は遂に国際連盟を脱退した。思えば1928（昭3）年の張作霖の爆死事件、31年の満州事変、32年の五・一五事件と、昭和前期の一連のできごとは、すべて歯止めの利かないファシズムの結果である。

大陸侵略の予定の行動とは言いながら、また、一部の無知蒙昧なる軍部がやったこととは言いながら、一旦、国運をかけた戦争となれば、国民全体が結束し、他民族を撃破しようとするのが常である。もう後退はできなかった。

満州国の誕生、国際連盟脱退の後には、1937（昭12）年の日中戦争を目がけ、怒濤のごとく歴史は流れて行くのである。

（1月29日 選択転記&文責 村山）